

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

圏域内には徳島市,小松島市および松茂町の2市1町が位置し,徳島県における産業,政治経済,文化,教育,情報の中心をなすエリアである。

また漁業協同組合は,圏域内に7漁協が存在するが,現在のところ漁協の合併の予定はない。

② 主要漁業種類,主要魚種の生産量,資源量の状況

本圏域では,「小型底びき網漁業」「パッチ網漁業」などの漁船漁業のほか,「スジアオノリ」や「クロノリ」などの「藻類養殖」が営まれている。

主要魚種は,主に小型底びき網漁業で水揚げされる「ハモ」,「タチウオ」,クマエビやサルボウなどの「エビ類」,コウイカをはじめとする「イカ類」のほか,パッチ網漁業で水揚げされる「シラス」,藻類養殖業で生産される「スジアオノリ」,「クロノリ」,「ワカメ」などである。

「ハモ」は,130トン超と全国有数の漁獲量を誇り,シラスは1,500トン超と本県での漁獲量の6割以上を占めている。

③ 水産物の流通・加工の状況

圏域で漁獲される水産物は,漁業者が直接徳島市中央卸売市場に出荷するほか,漁協による共同出荷が行われており,県内に限らずや首都圏など全国へ出荷を行っている。

パッチ網で漁獲されるシラスは,漁業者が経営体毎に加工機器を備えており,品質を保つため水揚げ後速やかに加工している。

また,「ハモ」については,「活魚水槽車」により関西方面へ出荷しているほか,首都圏へは,活魚出荷に加え,産地で骨切加工済みのものを首都圏の中央卸売市場へ出荷したり,飲食店に直接販売したりしている。

輸出品目としては,中国向けの「シリヤケイカ」や韓国向けの「タチウオ」等がある。

④ 養殖業の状況

本圏域は,「スジアオノリ」「クロノリ」などのノリ類の養殖が盛んで,本県のノリ類生産量の大部分を占めている。

吉野川下流域を中心に営まれている「スジアオノリ」の生産量は,全国トップシェアを誇るものの,昨今の水温上昇等による種苗育成状況の悪化,種網の張込み時期の遅れ等がみられ,生産期間が年々短くなる傾向にある。

また,時期はずれの暴風雨で養殖施設が損壊するなど,生産量の減少や不安定化をもたらす様々な要因にさらされている。

また,「クロノリ」については,水域の栄養塩低下や高齢化等により生産量が減少しているほか,鳥類・魚類による食害などにより安定した品質確保が難しい状況にある。

「スジアオノリ」「クロノリ」は,漁業者が乾燥,成型加工したものを県漁連で共同販売を行っており,全国に出荷されている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

漁業経営体数は、平成 25 年の 256（漁業センサス 2013）から、平成 30 年には 220（漁業センサス 2018）となっており、5 年間で 36 経営体（14%）減少している。

また漁業者数についても同様に、平成 25 年の 518 人（漁業センサス 2013）から、平成 30 年には 443（漁業センサス 2018）となっており、5 年間で 75 人（14%）減少している。後継者不足や販売単価の下落・低迷等は、本圏域だけでなく、本県漁業全体で大きな課題となっている。

⑥ 水産業の発展のための取組

本圏域では、ノリ養殖業を主とする「黒海苔・青海苔養殖広域浜プラン」及び小型底びき網漁業を主とする「徳島・小松島広域浜プラン」の 2 つの広域浜プランが策定されており、ノリの加工施設や冷蔵施設等の共同利用によるコストダウン、漁具や活魚水槽の改良による品質向上などに取り組んでいる。

小松島市の「ハモ」については、小松島市が専用 HP を立ち上げているほか、市と漁協が連携して首都圏で営業活動を行い販路拡大の取り組みを進めている。長原漁港の「シラス」については、2021 年 5 月に完成した松茂町交流拠点施設「Matsushigate」へ漁業者が出店し生シラス丼を提供するなど新たな取り組みも進められている。

また、ノリ類養殖では、貧栄養塩化による生産量の減少や品質低下に対応するため、下水処理場からの排水中に含まれる栄養塩濃度を水質汚濁防止法の基準内で高める「栄養塩管理運転」や養殖漁場での「施肥」による現場実証試験に取り組んでいるほか、既存の設備を活用し、「ウスバアオノリ」や「黒ばら干しノリ」の生産拡大に取り組んでいる。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

昭和 50 年代に現在の施設の骨格がほぼできあがっていることから、老朽化が進んでいること、また南海トラフ巨大地震に対する地震対策・津波対策が喫緊の課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

現在のところ具体的な予定はないが、漁業用施設の新設や設備の共同利用を促進するとともに、荷揚げ場の集約に取り組み、漁業経営の効率化や生産量の安定化、操業経費の低減を図る。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	養殖・採貝藻型	設定理由： ・主に養殖漁業が行われ、水産物を計画的または持続的に生産しているため。
② 圏域範囲	松茂町・徳島市・小松島市沿岸	設定理由： ・藻類養殖がおこなわれており、広域浜プランの対象地域でもあるため。
③ 流通拠点漁港	—	—
④ 生産拠点漁港	長原漁港	設定理由： ・漁業生産活動の中核を担う漁港であるため。
⑤ 輸出拠点漁港	—	—

(令和2年)

圏域の属地陸揚量(トン)	4,278
圏域の総漁港数	1
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1

圏域の登録漁船隻数(隻)	157
圏域内での輸出取扱量(トン)	0

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	徳島養殖生産拠点
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ノリ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	4,278t
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	246百万円

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・本圏域にある長原漁港の漁港施設は整備から時間が経過していることから老朽化が進行しており,機能保全計画に基づき計画的に維持補修を行っている。
- ・今後も,水産物の安定的な提供体制を下支えするため,機能保全計画の見直しとともに現在実施中の岸壁の老朽化対策を着実に実施する。

②養殖生産拠点の形成

- ・藻類養殖業では,漁場の栄養塩低下による収量減や「色落ち」による品質低下が課題となっていることから,今後,下水処理施設と連携した「栄養塩管理運転」や漁場への「施肥」を実施する。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・(1) ②と同様,藻類養殖業では,漁場の栄養塩低下による収量減や「色落ち」による品質低下が課題となっていることから,今後,下水処理施設と連携した「栄養塩管理運転」や漁場への「施肥」を実施する。

②災害リスクへの対応力強化

- ・本圏域では,発生が迫っている南海トラフ巨大地震についても対策が求められている。
- ・被災時の被害軽減や被災後の地域水産業早期再開のため,漁港施設の耐震化・耐津波化を実施するとともに,予防保全型維持管理への転換に向け必要となる老朽化対策を実施する。
- ・その他,地元松茂町と協力し,必要に応じBCPに基づく訓練,計画更新など,被災時の漁業への影響が最小限となるような取り組みを実施していく。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

- ・漁村地域の高齢化,人口減少が進んでいることから,松茂町が整備した交流体験施設「Matsushigate」を活用し,交流人口の増加による漁村活性化を進める。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・新規就業者は減少しており,若い男性のみならず多様な担い手を確保する必要があることから,働きやすい環境を整え,女性や高齢者の漁業就業を促進する。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・圏域内の機能保全計画見直しを行う。これに合わせ,新たな漁港管理漁港台帳のクラウド化を進め漁港管理台帳管理・保管のリスク分散,老朽化対策などのデータの保全や更新をすすめデジタル化社会の形成に向け取り組む。
- ・また機能保全計画に基づく現在進行中の岸壁保全事業を着実に進める。

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
徳島	予防保全	・水産生産 基盤整備事業	長原漁港	2	—

②養殖生産拠点の形成

- ・下水処理場と連携し,水質汚濁防止法等の排出基準の範囲内で,かつ処理に支障のない範囲において,出来るだけ高く保った処理水を排出する「栄養塩運転管理」を実施する。
- ・本件独自の「施肥」技術の実用化に向けた現場での試験を実施する。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・下水処理場と連携し,水質汚濁防止法等の排出基準の範囲内で,かつ処理に支障のない範囲において,出来るだけ高く保った処理水を排出する「栄養塩運転管理」を実施する。
- ・本件独自の「施肥」技術の実用化に向けた現場での試験を実施する。

②災害リスクへの対応力強化

- ・被災時の被害軽減や被災後の地域水産業早期再開のため,漁港施設の耐震化・耐津波化を実施するとともに,予防保全型維持管理への転換に向け必要なタイムリーな老朽化対策を実施していく。
- ・その他,B C Pの作成を促し,被災時の漁業への影響が最小限となるような取り組みを地元漁協や松茂町と協力し,実施していく。

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
徳島	安全・安心	・水産生産 基盤整備事業	長原漁港	2	—

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

・松茂町と地元漁業者が連携して交流体験施設「Matsushigate」において実施している産地直販の取り組みを継続する。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

・防風施設など漁港の安全対策の実施や、グリーン化社会の実現に向け照明取り替えに合わせたLED化を推進する。

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
徳島	就労環境	・水産生産 基盤整備事業 ・県単独事業	長原漁港	2	—

4. 環境への配慮事項

- ・カーボンニュートラル達成に向け、LED照明をはじめとする漁港における再生可能エネルギーを導入する。
- ・漁港関連工事においては、漁港や漁場への濁り等の影響を抑えるなど、工法、時期等にも細心の注意を払う。また、地元漁協との調整を密に行い、周辺水域の環境についての情報をこまめに収集する。

5. 水産物流通圏域図

別紙1参照

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

別紙2参照

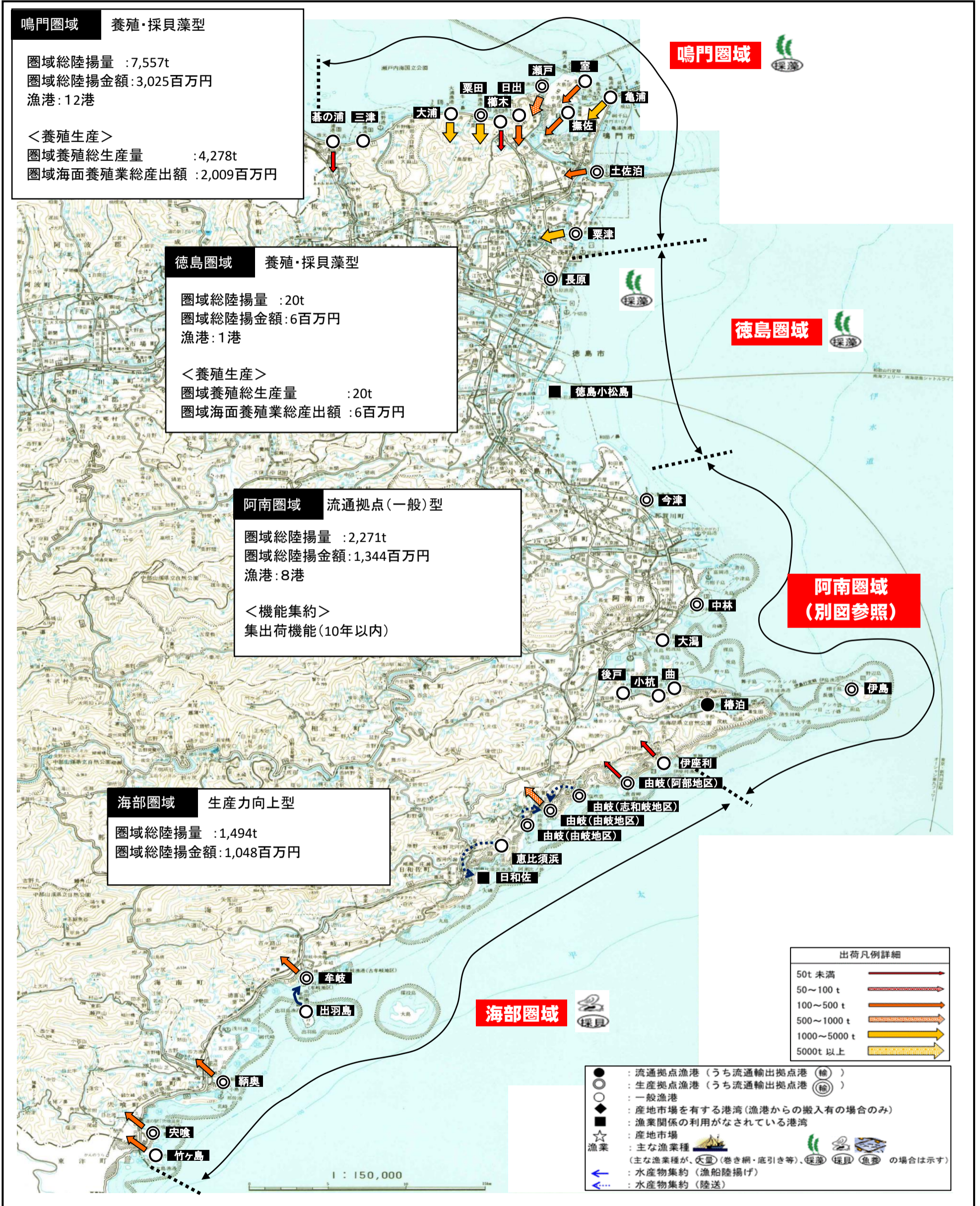
7. 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料

該当なし

8. その他参考となる資料

特になし

徳島県 水産物流通圏域図



徳島県（ノリ）養殖生産拠点地域図

